Ichinichi-Ichigen

一日一言

平穏死、満足死、納得死―。先日開かれた三豊総合病院の市民公開講座で、こんな言葉を知った。血管外科医として活躍した石飛幸三さんの著書「『平穏死』のすすめ　口から食べられなくなったらどうしますか」（講談社文庫）に詳しいという▲講師は、県内で唯一の在宅専門診療所を高松市に開設し、在宅診療や在宅緩和ケアに取り組む三宅敬二郎医師だ。支える医療を提供しようと、患者と家族に寄り添っている。この日のテーマは「あなたは人生の最期をどこで迎えたいですか」▲調査によると、「自宅」と答えた人が6割を占めるものの、伴侶のみとりを経験した人を中心に病院や施設をあえて希望する人も少なくないらしい。家族や遠くに住む子どもたちに迷惑をかけまいとの親心からである▲現実はどうだろう。医療費を抑える狙いもあって、高齢者は増えているのに病床数は減っている時代。望むと望まざるとにかかわらず、これからは自宅で最期を迎えざるを得ない人が増えていく▲自宅で適切な医療が受けられるのか。そんな疑問も生じるが、がん患者なら、痛みのコントロールも十分可能な時代。何より「在宅力」が療養に好影響を与え、安らかな最期が期待できる。支える仕組みさえあれば、家族の負担だって減る▲「老いても病んでも、わが家で暮らせ、最期を迎えられる地域づくりが理想」と三宅医師。それには本人と家族の強い「覚悟」と、医療者が壁にならないことが重要と訴える。（Y）

2016.2.3

Ichinichi-Ichigen

一日一言

平穏死、満足死、納得死―。先日開かれた三豊総合病院の市民公開講座で、こんな言葉を知った。血管外科医として活躍した石飛幸三さんの著書「『平穏死』のすすめ　口から食べられなくなったらどうしますか」（講談社文庫）に詳しいという▲講師は、県内で唯一の在宅専門診療所を高松市に開設し、在宅診療や在宅緩和ケアに取り組む三宅敬二郎医師だ。支える医療を提供しようと、患者と家族に寄り添っている。この日のテーマは「あなたは人生の最期をどこで迎えたいですか」▲調査によると、「自宅」と答えた人が6割を占めるものの、伴侶のみとりを経験した人を中心に病院や施設をあえて希望する人も少なくないらしい。家族や遠くに住む子どもたちに迷惑をかけまいとの親心からである▲現実はどうだろう。医療費を抑える狙いもあって、高齢者は増えているのに病床数は減っている時代。望むと望まざるとにかかわらず、これからは自宅で最期を迎えざるを得ない人が増えていく▲自宅で適切な医療が受けられるのか。そんな疑問も生じるが、がん患者なら、痛みのコントロールも十分可能な時代。何より「在宅力」が療養に好影響を与え、安らかな最期が期待できる。支える仕組みさえあれば、家族の負担だって減る▲「老いても病んでも、わが家で暮らせ、最期を迎えられる地域づくりが理想」と三宅医師。それには本人と家族の強い「覚悟」と、医療者が壁にならないことが重要と訴える。（Y）

2016.2.3